マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第4部 4つの型

U09　言いかえ型（どういうことか）

アドバンス

対象：高校2年・偏差値50

1. 要点（ルール）
2. 例題　評論「自分の顔」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　言いかえ型のルール

R09-1　言いかえ型の見分け

「どういうことか」「どういう意味か」「どのような〇〇か」「何を指すか」＝――線部の意味内容を、別の言葉でひらいて説明する問題。理由型（なぜか）・まとめ型（共通点・違い）と取りちがえない。

R09-2　区切る

――線部を意味のまとまりで区切り、すべての部分を答えに反映させる。主語・比較の相手（～よりも）・述語のどれが欠けても、意味内容は説明しきれない。

R09-3　自分の言葉にするのは3つだけ

比喩・指示語・具体例の3つは言いかえる（抽象化する）。それ以外の、筆者が定義して使っている語（キーワード・評論用語）は本文の言葉を使う。これが「本文の言葉を使え」と「言いかえよ」の使い分けの基準。

R09-4　指示語は代入して確かめる

指示語を含む一文から内容を予測→前から探す（まれに後ろ）→指示語の位置に代入して読み、文意が通るかを確かめる。具体例やセリフが指されているときは、抽象化してまとめる。

R09-5　中身の点検が先、文末は最後

「～ということ。」は最後の確認にすぎない。先に、――線部の語をくり返していないか（同語反復）、比喩・指示語が残っていないかを点検する。文末は問いの名詞に合わせる（どういうこと→こと／どのような〇〇→〇〇）。

R09-6　採点表

区切った部分ごとに配点がある。中心の比喩・キーワードの言いかえに最も高い配点。同語反復は0点。字数超過は採点対象外になることが多い。

R09-7　対比・逆説の――線部は両側をひらく

「AよりもBのほうが」「～なのに…」「～ではなく…」の形は、AとBの両側を本文の対比で言いかえる。比喩の中身は、筆者が置いた説明（「つまり」「同じだ」の前後）から取る。――線部より先の話（筆者の結論・発展）は、聞かれていなければ入れない。

ルールの番号（R09-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　評論「自分の顔」

① 私たちは、自分のことは自分がいちばんよく知っていると思っている。好きなもの、苦手なこと、いま何を考えているか。たしかにそれらは他人には見えにくく、自分にしかわからない部分が大きい。けれども、ひとつだけ、どうしても自分では知ることのできないものがある。それは、自分の顔である。

② もちろん、私たちは毎朝、鏡で自分の顔を見ている。写真や動画に映った顔を見ることもある。しかし、鏡に映る顔は左右が反対であり、しかも、見られることを意識して身がまえた顔である。写真の顔は、生きて動いている顔の、ある一瞬を切りとったものにすぎない。私たちが目にしているのは、いつも顔そのものではなく、顔の像なのだ。

③ これに対して、他人は、私の顔を正面から直接見ている。話しながら表情を変え、笑ったり、ふと曇ったりする顔を、私が気づかないうちにも見ている。自分ではうまく隠したつもりの不安を「顔に出ているよ」と言われて、はっとすることがあるのはそのためだ。

④ つまり、私の顔は、私よりも他人のほうがよく知っている。顔は、私のいちばん表にありながら、私自身には決して直接見ることのできない場所なのである。

⑤ だとすれば、私たちは、自分がどのような顔をしているのかを、他人のまなざしを通して受けとるしかない。「元気がないね」「楽しそうだね」と声をかけられて、はじめて自分の顔に気づく。顔とは、自分ひとりで所有しているものというより、他人とのあいだで、そのつど見いだされるものなのだ。

⑥ 人と会わない日がつづくと、自分がどんな顔をしているのかが、だんだんわからなくなるという人がいる。それは、顔が、もともと他人に向けられ、他人によって映しかえされることで、はじめて形をもつものだからではないだろうか。

問　――線部「私の顔は、私よりも他人のほうがよく知っている」とあるが、どういうことか。百字以内で説明せよ。

解き方

1. **手順1　型と形を見る**
   「どういうことか」＝言いかえ型。――線部は「私よりも他人のほうが」という対比の形なので、私の側と他人の側の両方をひらく(R09-7)。
2. **手順2　区切る**
   「私の顔は／私よりも(＝私は知らない)／他人のほうがよく知っている」。「私よりも」を落とすと、半分しか説明できない(R09-2)。

3. **手順3　私の側(②段落)**
   私は鏡や写真でしか自分の顔を見られない。鏡は左右が反対で身がまえた顔、写真は一瞬を切りとったもの＝顔そのものではなく「顔の像」。

4. **手順4　他人の側(③段落)**
   他人は、話しながら表情を変える動いている顔を、正面から直接見ている。③段落の「顔に出ているよ」は具体例なので、書くなら「表情」とまとめる(R09-3)。

5. **手順5　先の話は入れない**
   ⑤⑥段落(他人のまなざしを通して受けとる・他人とのあいだで見いだされる)は、――線部から筆者が進めた結論。「どういうことか」では聞かれていないので、百字でも入れない(R09-7)。

6. **手順6　点検してから文末**
   「よく知っている」をくり返していないか、「像」「直接」と本文のキーワードで言いかえられているかを点検し、「～ということ。」で終える(R09-5)。

要素表(材料を集める)

要素	中身	根拠	入れる？
私よりも(私の側)	私は鏡や写真の像を通してしか自分の顔を見られない	②	◎ 入れる
像の中身	鏡は左右が反対で身がまえた顔、写真は動く顔の一瞬	②	○ 百字なら入れる
他人のほうが(他人の側)	他人は、表情を変えて動いている私の顔を、正面から直接見ている	③	◎ 入れる
先の話	顔は他人のまなざしを通して受けとるしかない／他人とのあいだで見いだされる	⑤⑥	△ 入れない
具体例	「顔に出ているよ」と言われてはっとする	③	× そのまま書かない

模範解答

模範解答(百字以内)　84字／100字以内

自分は鏡や写真を通して、左右が反対の像や一瞬を切りとった像としてしか自分の顔を見られないが、他人は、表情を変えながら動いている私の顔を、正面から直接見ているということ。

参考:六十字以内なら　51字／60字以内

自分は鏡や写真の像でしか自分の顔を見られないが、他人は表情を変えて動く私の顔を直接見ているということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
私の側:自分は鏡や写真の像でしか自分の顔を見られない	4点
他人の側:他人は表情を変えて動く顔を直接見ている	3点
像の中身:左右が反対・一瞬を切りとったもの(顔そのものではない)	2点
文末が「〜ということ。」・主述がねじれていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「自分の顔は、自分よりも他人のほうがよく知っているということ。」	——線部をくり返して文末を変えただけ(同語反復)。0点。
「顔は他人とのあいだで見いだされるものだということ。」	——線部より先の結論(⑤段落)。私の側・他人の側のどちらも説明していない。0点。
「他人は私の顔を直接見ているということ。」	他人の側だけ。「私よりも」が説明されておらず、4点が入らない(10点中4点)。
「『顔に出ているよ』と言われるということ。」	具体例のまま。0点。
百一字以上	字数超過。採点対象外になることが多い。

練習1　評論「透明なからだ」

① ふだん、私たちは自分のからだのことを、ほとんど考えていない。階段をのぼるとき、足をどれだけ上げればよいかを計算する人はいない。文字を書くとき、指の一本一本の動きを意識する人もいない。私たちの注意は、のぼった先の教室や、書こうとしている言葉のほうに向かっている。そのあいだ、からだはひっそりと仕事をしている。

② その意味で、日々の暮らしのなかで、からだは透明である。

③ 窓ガラスを思いうかべてみよう。よくみがかれたガラスごしに外の景色をながめているとき、私たちはガラスそのものを見てはいない。ガラスは、景色を見せるために、自分の姿を消している。ところが、ガラスに汚れがついたり、ひびが入ったりすると、とたんにガラスそのものが目に入ってくる。

④ 道具にも同じことが言える。使いなれたペンで字を書くとき、私たちはペンのことを忘れ、紙の上の言葉だけを見ている。ペンは手の延長として、からだの一部のように働いているのだ。ところが、インクがかすれたとたん、ペンは急に、思いどおりにならない一本の棒として目の前に現れる。

⑤ からだも同じだ。かぜをひいて熱が出たとき、足をくじいたとき、からだは急に重たいものとして現れる。階段の一段一段が高く感じられ、何も考えずにしていた動作の一つ一つに、手間と注意が必要になる。からだはそのときはじめて、思うようにはならないもの、私とは別のもののように感じられる。

⑥ 病気やけがは、たしかにつらい。だが、そのとき私たちは、ふだんは見えていなかったからだの働きに、はじめて気づかされる。からだの声を聴くとは、思うようにならないからだを、じゃまものとして追いはらうことではない。その重さを通して、自分がふだん何に支えられていたのかを知ることなのかもしれない。

問　――線部「日々の暮らしのなかで、からだは透明である」とあるが、どういうことか。九十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

区切った部分	言いかえ（なるべく本文の言葉で）	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60
									70										80
									90										

90字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　評論(説明型)「わかりあえなさから」

① 「話せばわかる」とよく言われる。たがいの考えをていねいに伝えあえば、いつかは同じ考えにたどりつける。対話とは、そのための手段だと、多くの人は考えている。

② しかし、ほんとうにそうだろうか。家族の食卓を思いうかべてみよう。進路について、親と子が何時間話しあっても、最後まで意見が分かれたままのことがある。長い時間をともにすごしてきた相手とさえ、考えが一つになるとはかぎらない。おたがいに相手を大切に思っているからこそ、ゆずれないこともある。

③ 留学生と話していて、「約束の時間を守る」という言葉の意味が、自分とまるでちがっていたことに気づかされることもある。同じ言葉を使っていても、その言葉が指す中身は、育ってきた場所や経験によってちがうのである。そのちがいに気づかないまま話を進めれば、二人は同じ言葉で、別々のことを話しつづけることになる。

④ こうした場面で、相手を説得して自分の考えにそろえようとすれば、話しあいは勝ち負けになってしまう。逆に、ちがいにふれないように話を合わせれば、表面上はなごやかでも、ほんとうの考えはだれにも届かないままだ。どちらの場合も、相手は「自分とはちがう考えをもつ人」としては、そこにいない。

⑤ 対話は、わかりあえないところから始まる。相手は自分とはちがう、そう簡単にはわかりあえない。そのことを出発点として認めたとき、人ははじめて、相手の言葉にほんとうに耳をかたむける。どこがちがうのか、なぜちがうのかを、たしかめずにはいられなくなるからだ。

⑥ 対話のゴールは、全員が同じ考えになることではない。ちがいがどこにあるのかがはっきりし、それぞれが自分の考えを少しずつ問い直していくこと。その過程そのものに、対話の意味がある。わかりあえないという事実は、対話をあきらめる理由ではなく、対話をつづける理由なのである。

問　――線部「対話は、わかりあえないところから始まる」とはどういうことか。本文全体をふまえて百二十字以内で説明せよ。

① 要素表を書こう

区切った部分	言いかえ（なるべく本文の言葉で）	根拠の段落

② 答えを書こう

10 20
30 40
50 60
70 80
90 100
110 120

120字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　評論「透明なからだ」

解き方

1. **手順1　比喩を見つける**
   「透明」は比喩（R09-3）。からだが本当に透き通っているのではない。中身は、筆者が置いた説明から取る＝③段落の窓ガラスの話と「同じだ」（R09-7）。

2. **手順2　区切る**
   「日々の暮らしのなかで／からだは／透明である」。「日々の暮らしのなかで」は⑤段落の「かぜ・けが」のときと対比されている＝病気やけがのないふだん。

3. **手順3　「透明」の中身**
   ガラスは景色を見せるために姿を消し、ガラスそのものは見えない（④段落のペンも同じ）。からだも、①段落のとおり、注意がのぼった先や書く言葉に向かっているあいだ、ひっそり働き、意識されない。

4. **手順4　具体例を外す**
   階段・文字を書く・窓ガラス・ペンは具体例。そのまま書かずに「からだを使って向かう先のものごと」「からだそのもの」とまとめる。

5. **手順5　点検してから文末**
   「透明」「見えない」という比喩の言葉が答えに残っていないかを点検し、「～ということ。」で終える。⑥段落の「からだの声を聴く」は先の話なので入れない。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
透明である（比喩）	からだそのものは意識されない（気づかれない）	①③	◎ 入れる
なぜ意識されないか	注意はからだを使って向かう先のものごとに向き、からだはひっそり働いている	①	◎ 入れる
日々の暮らしのなかで	病気やけがのないふだんは（⑤との対比）	⑤	○ 入れる
具体例	階段・文字を書く／窓ガラス／ペン	①③④	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（九十字以内）　87字／90字以内

病気やけがのないふだんは、私たちの注意はからだを使って向かう先のものごとに向いていて、からだはその陰でひっそりと働いているため、からだそのものを意識することがないということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
比喩「透明」の言いかえ:からだそのものは意識されない	4点
中身:注意は向かう先に向き、からだはひっそり働いている	3点
「日々の暮らし」=病気やけがのないふだん(対比)	2点
文末が「〜ということ。」・比喩や具体例をそのまま書いていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「からだは窓ガラスのように透き通っているということ。」	比喩と具体例のまま。0点。
「病気になると、からだに気づくということ。」	反対側(⑤⑥段落)だけ。ふだんのからだの説明が無い。2点。
「からだは目に見えないということ。」	比喩を文字どおりに受けとった(からだは目に見える)。0点。

練習2　評論(説明型)「わかりあえなさから」

解き方

1. **手順1　逆説を見る**
   ふつうは「わかりあうために話す」。——線部は「わかりあえない」が出発点だと言う逆説。「本文全体をふまえて」なので、①段落のふつうの考えと対比させて、何が出発点で、そこから何をするのかまで説明する(R09-7)。
2. **手順2　区切る**
   「対話は／わかりあえないところから／始まる」。「対話」とは何か(⑥段落)、「わかりあえないところ」とは何か(⑤段落)、「始まる」=そこから何が起きるか(⑤⑥段落)。
3. **手順3　具体例を外す**
   家族の食卓・留学生の「約束の時間」は具体例。「相手は自分とはちがい、簡単にはわかりあえない」とまとめる(R09-3)。④段落の説得・話を合わせる、は失敗の例なので、字数があまれば対比として使う。
4. **手順4　キーワードは本文の言葉で**
   「対話」「ちがい」「問い直す」は筆者が定義して使っている語なので、そのまま使ってよい(R09-3)。言いかえるのは、比喩・指示語・具体例だけ。
5. **手順5　百二十字で組む**
   ふつうの考えの否定(同じ考えにたどりつく手段ではない)→出発点(ちがいを認める)→その後(ちがいをたしかめ、自分の考えを問い直す)→「〜ということ。」

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
わかりあえないところ	相手は自分とはちがい、簡単にはわかりあえないと認めること（出発点）	⑤	◎ 入れる
始まる（その後）	ちがいがどこにあり、なぜちがうのかをたしかめ、それぞれが自分の考えを問い直していく	⑤⑥	◎ 入れる
対比（ふつうの考え）	対話は同じ考えにたどりつくための手段ではない	①⑥	○ 入れる
具体例	家族の食卓／留学生の「約束の時間」	②③	× そのまま書かない

模範解答

模範解答（百二十字以内） 111字／120字以内

対話とは同じ考えにたどりつくための手段ではなく、相手は自分とはちがい簡単にはわかりあえないと認めることを出発点にして、ちがいがどこにありなぜ生じるのかをたしかめながら、それぞれが自分の考えを問い直していく営みだということ。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
出発点：相手は自分とはちがい、簡単にはわかりあえないと認める	4点
その後：ちがいをたしかめ、それぞれが自分の考えを問い直す	3点
対比：対話は同じ考えにたどりつく手段ではない	2点
文末が「～ということ。」・具体例をそのまま書いていない	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「対話はわかりあえないところから始まるということ。」	――線部のくり返しに文末をつけただけ（同語反復）。0点。
「親と子は進路について意見が分かれるということ。」	具体例のまま。0点。
「人はわかりあえないので、対話はむだだということ。」	筆者の考えと反対（⑥段落：あきらめる理由ではない）。0点。
出発点だけで「その後」が無い	「始まる」の中身（ちがいをたしかめ、問い直す）が無い。6点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U09 言いかえ型(アドバンス)

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます